

2009 年度 (平成 21 年度) 学校評価自己評価表

最終更新日	2010年(平成22年)3月 1日
-------	-------------------

校番 32	福山市立松永小学校
-------	-----------

1 学校教育目標

自ら学び 心ゆたかに ねばり強く

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

松永に誇りを持ち、地域社会に貢献できる子どもを育てる。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

— 子どもも満足、教職員も満足、保護者地域も満足する学校 —
 ①基礎学力と生活学力を身につけている子ども
 ②指導力向上のために主体的に技と心を磨き、地域・保護者から信頼される教職員

3 自校の現状分析

新学習指導要領が目指す、確かな学力を育てるための取組みや授業改善を進めてきたがまだ十分でなく課題がある。そこで、今年度はさらに確かな学力を育てるために、「学習のしつけ」を基底とした、習得・活用・探究する力を育成する授業改善と心を豊かにする読書貯金を取組むことで課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育てることとした。

生徒指導においては、時間を守ることやねばり強く物事に取組む姿勢は出てきたが、自ら挨拶をする、だまって掃除を行う事ができない実態がある。児童にマナーや公共心などの規範意識を身に付けさせ、当たり前前の方が当たり前前ができる児童の育成を図っていく。

児童の体力づくりにおいては、新体力テストの結果を「体力・運動能力ステップアップカード」に記入させ、目標を持って取組ませてきた。県平均を上回るものも多くなったが、巧緻性や敏捷性については課題がある。体力向上担当教員を中心として、低・中・高学年の系統的・組織的な体力向上の計画を作成し、教育活動全体を通して体力向上に向けた取組みを進めていく。

また、市民から信頼される学校を進めていくために、わかりやすい情報発信を積極的に行い、学校と地域や保護者をつなぐ取組みを進めていく。

学校教育目標の実現に向け、校長のリーダーシップのもと組織的マネジメントに沿った学校運営を行い、組織体として動いていく教職員集団を確立していく必要がある。

4 研究主題

(1) 研究主題

思考力・表現力を高める授業づくり
 ～国語科学習指導を通して～

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	教育研究支援事業(国語)	平成20年～平成22年

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
基礎学力を定着させるために、習得・活用・探究する授業への改善	基礎学力の定着においてはまだ十分ではなく課題も多い。そこで、習得・活用・探究する力を育成する授業改善を行い確かな学力を育てる。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
I 確 かな 学 力	2	「習得・活用・探究」を目指す授業研究を行い学力調査で、全国平均・県平均にする	★	見直し	学力調査結果を活用した明確な授業改善の取組みを行い検証する	A	▽低・中・高学年で、「授業改善シート」をもとに、思考力・表現力をつける授業を年2回以上実施する。 ◇「家庭学習の手引き」を活用した自主的な学び、自主学習ノートを活用し「できる」の児童を80%以上にする。	a a	□授業研究等で「授業改善シート」を活用し、思考力・表現力をつける改善の授業を4回実施することができた。(発問の工夫・集団思考による変容) □「家庭学習の手引き」「自主学習の手引き」を活用することで、学校全体の取組みができ97%の定着率である。 ○全国学力調査では、国語では、A・B問題とも国・県平均より上まわることができた。算数では、A問題は国・県より上まわったが、B問題では国は上まわったが、県は下まわった。 ◎習得したことを、活用する授業を「授業改善シート」をもとに図り、「ひろしま」学びのサイクルを定着させる。
	3	全教科等で「ことばの力」を身につけさせる取組みを行い、「できる」の児童を80%以上にする		継続	すべての教科等で言語活動を充実させ、ことばの力を育てる	A	◇学期ごとに学年3つ以上「ことばの力」をつける教材を暗唱し、表現朝会で成果を発表する。7月・12月・2月に検証を行い100%の達成率にする。 ▽「ことばの力」を付ける言語環境を整える整備を3つ以上行う。	a a	□各学年で年間9編の暗唱教材を計画的に進め、全学年9編暗唱できた。表現朝会において全学年成果を発表することができた。 □言語環境の整備は、3つ以上できている。(人権標語・視写・本紹介・新聞等) ○「ことばの力」を身につけ、言語技術を活用して話すことができる児童が87%の達成率である。 ◎「読書活動」、「ことばの時間」の活用、「言語環境の整備」を行い、ことばの教育を進めていく。
	2	本を読むことが「好きになった」児童を90%以上にする		継続	心を豊かにする読書貯金の取組みを行う	A	◇読書貯金を低学年80冊、中学年4000ページ、高学年6400ページの達成率を7月・12月・2月に把握し、80%以上にする。 ▽家庭との連携を図り「テレビなしデー」、「親子読書」の取組みを65%以上にする。	a a	□読書貯金は低学年100%、中学年75%、高学年88%の達成率である。 □「テレビなしデー」は80%、「親子読書」は82%の達成率である。 ○日本一宣言の「読書貯金」の今年度の目標は達成することができた。学校全体としては87%の達成率である。 ◎読み聞かせ、読書だより等を通して興味づけを行ったり、家庭との連携を図る中で家読を進めていく。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期) 経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
Ⅱ 豊かな 心	1	道徳の時間などで学んだことを「心のノート」等を活用し日常生活で振り返り「実践できた」児童を80%以上にする	★	新規	校内に道徳教育推進のチームをつくり、全教職員で取組みを推進する	A	◇保護者・地域の人々をゲストティーチャーとして招き、道徳の授業を学年で1回以上は行う。 ▽生活ノート等を活用し「実践できた」という児童を80%以上にする。	a a	□全学年ゲストティーチャーを招き、地域と連携した道徳授業を全学年1回以上実施することができた。 □生活ノート、心のノートを活用し学んだことを「実践できた」という児童は85%以上の達成率である。 ○道徳教育の推進チームをつくり、学校として組織的に動く体制ができた。9月には全学年で道徳参観日を行った。 ◎心に響く道徳資料の収集、ゲストティーチャーの活用・ファイル化を行い、道徳教育を推進する。
	2	「自ら挨拶をする、時間を守る、だまって掃除」の「できる」の児童を80%以上にする		見直し	規律3要素について、状況に応じた指導を徹底させる	B	◇「自ら挨拶をする」「時間を守る」「だまって掃除」の規律3要素の達成率を7月・12月・2月のアンケート調査を実施し、80%以上にする。	b	□「自ら挨拶をする」89%。「時間を守る」90%。「だまって掃除」60%の達成率である。 ○規律3要素は全体で80%の達成率である。 ◎「だまって掃除」については、学級での点検、児童会との連携を図り、「そうじ名人」などで頑張っている児童を全校で褒めていく取組みをする。
Ⅲ 健やか な体	3	「体力・運動能力ステップアップカード」を活用し目標を持って取り組む児童を80%以上にする	★	見直し	体力向上担当者を中心とした、体力向上全体計画を作成し教育活動全体で取組みを実施する	A	▽体力向上に向けた研修会を2回開催し、全教職員の力量の向上を図る。 ◇「体力づくりがんばりカード」を通して、目標を持って体力向上に取り組む児童の実施率を7月、12月、2月に調査を実施し、80%以上にする。	a a	□体力向上に向けた研修会(新体力テストの指導法・投力をつける指導法)を2回実施することができた。 □「体力づくりがんばりカード」を活用し、体力向上に取り組む児童は96%の実施率である。 ○体力向上担当者を中心に学校全体で体力向上に向けた取組みを進めることができた。 ◎「体力づくりがんばりカード」の実施を図り、体力向上に向けた学校環境を整える。
	3	「三食きっちり」運動を進め、「できた」という児童を95%以上にする		見直し	望ましい生活習慣の確立のため改善シートを活用した取組みをする	A	◇朝食を毎日食べて来る児童の達成率を学期に1回調査し95%以上にする。	a	□朝食を毎日食べて来る児童の調査では、99%の児童が朝食を食べてきている。 ○生活習慣の確立に向け、学期ごとに「早寝・早起き・三食きっちり」の改善シート(生活調べ)を実施することで改善がみられた。達成率は98%である。 ◎保護者に向けての啓発を今後も積極的に実施し生活習慣の確立を図る。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期) 経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
IV 力量 ある 教職 員	3	専門性と授業力を高める優れた実践のノウハウを積極的に校内に還元するを90%以上にする		継続	専門性を高める校内研修と教科リーダーの育成を図る	A	◇授業改善に生かせるレポートを1回以上は作成する。夏季研修・冬季研修を中心に交流を行う。	a	□夏季・冬季研修において、授業改善に生かせるレポート38本(30人)を交流し報告集を作成する。 □教科リーダーによる、模擬授業(道徳)は1回、演習(英語活動)は2回実施することができた。 ○教科リーダーによる実践のノウハウを還元し、授業力向上に向けた研修を行うことができた。 ◎教科リーダーによる研修・演習、模擬授業を今後も積極的に還元していく。
							▽教科リーダーによる模擬授業1回、演習を1回以上行い、専門性を高める取組みを行う。	a	
V 市民 から 信頼 され る 学 校	3	地域・保護者から信頼される学校を目指し、保護者からの肯定的評価を85%以上にする		継続	わかりやすい学校の情報を定期的に発信する	A	△学校評価自己評価表の成果や課題を記述した学級通信を学期に2回以上発行し80%以上の達成率にする。	a	□学校評価自己評価表の成果や課題について記述した通信の発行を学期に2回以上する達成率は100%である。 ○情報発信の内容として、各教科の進捗・定着状況、自主学習、挨拶等の状況について分かりやすく発信することができた。 ◎学年等の情報発信の内容について交流し、地域・保護者から声を大切にした信頼される学校情報を発信する。
	3	学校評価の充実に向け松小プラン作成し、達成率を90%以上にする		継続	校長のリーダーシップのもと、マネジメントサイクルで組織的な学校経営を行う	A	◇学校評価自己評価表に沿った「松小プラン」の進捗状況について7月・12月・2月に把握し、達成率を90%以上にする。	a	□「松小プラン」については、進捗状況を把握し改善策のマネジメントに沿って取組みを行うことができた。プランの達成状況は95%である。 ○校長のリーダーシップのもとマネジメントサイクルで動く学校体制ができています。 ◎プランナー方式を、今後も取り入れて組織的な取組みをする。
	3	教育公務員としての自覚と使命感を確立する研修を10回以上実施する		継続	教育公務員としての自覚を持ち、服務規律の厳正確保に努める	A	◇服務規律等の研修を学期に3回以上実施し、達成率を7月・12月・2月に検証し100%以上にする。	a	□服務規律等の研修を24回、学期に3回以上実施することができた。 (服務規律12回、教育法規3回、情報管理8回、接遇1回) ○教育公務員として不祥事根絶に向け、服務規律の厳正確保を行うことができた。 ◎今後も当事者意識を持った具体的な内容の服務研修(ロールプレイ等)を行う。